

# 白状文

寮猫クロ

寮生のみなさん。私クロは、ここに白状します。私がこれから、あなた達と友好関係を築き上げるために。

私はこれまで、吉田寮の名物猫として、それは長いこと皆さんに親しまれてきました。私の気品、行儀の良さは、ほかの寮猫に広く知れ渡り、私もみなさんとは、仲良くしてきたつもりですわ。

・・・でもね。

私の左目をよく観察してみなさい。そう、試しに、左目に光を当ててごらん下さい。全く、瞳孔が閉まらないことに気づくでしょう。私の、左目は義眼、しかも、映写機が埋め込まれているのですよ。さらに、私の右耳の奥をよくのぞいておくん下さい。4ミリ角程の黒いものが見えるでしょう。集音機ですわ。といっても、五年前に私の任期は切れて、これらの機械はもう動きませんがね。もう、私といたら、ここ長年、良心の呵責に苛まれて生きてきました。いえいえ、決して寮生あなた方のことを思ってではありませんの、毎日、私の面倒を見てくれている事務員さんに対してですよ。もう、ここで本当のことを打ち明けようと思うのです。

そう、私は、もともと、京大当局が仕組んだ猫なのです。当時はね、学生運動はもう下火になってたんだけど、やたらめったら、集中情報局の職員連中が、寮生が当局に攻め込んでくるかもしれないから、寮生の活動情報を仕入れるべきだって議論になってて。

それで映写機と集音機を仕込んだ猫を寮に仕掛けるって話が持ち上がったのよ。そしたら、私が選ばれて。最初は、寮生はとんでもないやつらなんだって、信じ込まされて、三年間みーっちり訓練させられたの。

それはそれは、“どこからか迷い込んできた猫”として、吉田寮に初めて侵入した当時は意気揚揚としていましたわ。

・・・やってやるって。

あなたがたといったら、私のもともとのかわいらしさにかまけて、なでなですすぎなんだから。ぜーんぜん、警戒感ないの。おかげで偵察活動がしやすかったわよ。

でもね、一年して、分かったのよ。あなた方、武装化して時計台を襲う様子なんかこれっぽっちもないじゃない。代わりに、あなた方ときたら、深夜に、寝ている人の部屋にストームかけにあって、口のところだけ残してガムテープでぐるぐる巻きにしたり、エタノールの力に任せて教養部のガラスを何枚も割ったり。ある子なんか、何日も砂糖だけしか口にしないで、シャワー室で倒れているのを、他の寮生に発見されたり。

がっかりしたわ。私は、肩を落として集中情報局に報告しに行くの。そしたら、局長に、なんで寮生の有用な活動情報がこれっぽちも出てこないのかって、毎回、怒鳴られっぱなし。報告日の木曜の朝は憂鬱だったわ。いっつもそんなことの繰り返し。

それで、五年前ようやく当初の任期が終わったのよ。本当は偵察猫なんだから、その後は、集中情報局の中で余生を静かに過ごさなきゃいけないんだけど、私を含めた非常勤職員の扱いの悪さに嫌気がさしてね、脱局してしまったのね。

私、これからどこに行けばいいのかしらって思ったとき、寮の風景が頭をよぎったの。気づいたら、玄関の前にいたわ。私、気付いたの。最初、何このおんぼろの建物はって思ったけど、ずーっといって、案外ここも悪くないって。なにより事務員さんの温かさに負けてしまったようだよ。あれから五年も経つからね。ほんと早いわ。

まあ、これからもよろしくってことだわね。

でもね、あなた方、ここ5年ぐらい、随分まるくなってきたわね。学生なんだから、もっと活動的でいなさい。あ、私が「活動」なんか勧めちゃだめよね。うふふふ。